

## 株式会社常陽銀行が実施する 株式会社ジョイフル本田に対する ポジティブ・インパクト・ファイナンスに係る第三者意見

株式会社日本格付研究所（JCR）は、株式会社常陽銀行が株式会社ジョイフル本田に実施するポジティブ・インパクト・ファイナンスに対し、第三者意見書を提出しました。

### <要約>

本第三者意見は、株式会社常陽銀行（常陽銀行）が株式会社ジョイフル本田（ジョイフル本田）に実施するポジティブ・インパクト・ファイナンス（本ファイナンス）に対して、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）の策定した PIF 原則及び資金使途を限定しない事業会社向け金融商品のモデル・フレームワーク（モデル・フレームワーク）への適合性、並びに環境省の ESG 金融ハイレベル・パネル設置要綱第 2 項(4)に基づき設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォース（PIF TF）が纏めた「インパクトファイナンスの基本的考え方」との整合性を確認したものである。株式会社日本格付研究所（JCR）は、PIF 第 4 原則で推奨されている評価の透明性及び客観性確保のため、独立した第三者機関として、(1)ジョイフル本田に係る PIF 評価の合理性及び本ファイナンスのインパクト、並びに(2)常陽銀行の PIF 評価フレームワーク及び本ファイナンスの PIF 原則に対する準拠性について確認を行った。

#### (1) ジョイフル本田に係る PIF 評価の合理性及び本ファイナンスのインパクト

ジョイフル本田は、「『必要必在』と『生活提案』で地域社会の喜びと夢を共創する」というミッション及び「国内 No.1 の“Living Space Innovator”企業となる」というビジョンのもと、ホームセンター事業及び住宅リフォーム事業を営む企業である。1975 年、「住まいと暮らしの総合センター」を経営ビジョンに掲げて、茨城県土浦市に株式会社ジョイフル本田が設立された。1976 年にホームセンター1号店としてジョイフル本田荒川沖店（茨城県土浦市）をオープンしたのを皮切りに、1977 年から 1995 年までに茨城県、千葉県、埼玉県にホームセンターを 8 店舗出店し、多くの店舗で増床している。また、1998 年にはホームセンター10号店として、日本最大級の売場面積となるジョイフル本田ニューポートひたちなか店（茨城県ひたちなか市）をオープンし、これ以降、ホームセンター15号店となるジョイフル本田千代田店まで、積極的に超大型店を開業した。2014 年には東京証券取引所一部上場を果たし、現在は東京証券取引所プライム市場に上場している。

ジョイフル本田は、持続可能な社会の実現に向けて、サステナビリティ活動を強化するために、マテリアリティを特定するとともに、2023 年 7 月に代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ委員会を設置した。サステナビリティ委員会では、気候関連のリスクに関する方針、施策、制度の新設・改廃の策定、GX 推進の進捗状況及び課題と対策の報告とそれに対する助言、働きがいのある職場の実現に向けた課題と対策の報告とそれに対する助言等について審議するとともに、定期的に取締

役会へ報告・提言を行っている。

本 PIF 評価では、ジョイフル本田の事業活動全体に対する包括的分析が行われた。ジョイフル本田のサステナビリティ活動等进行分析した結果、ポジティブ面では「住居」、「教育」、「賃金」、「零細・中小企業の繁栄」が、ネガティブ面では「データプライバシー」、「自然災害」、「健康および安全性」、「社会的保護」、「ジェンダー平等」、「気候の安定性」、「生物種」、「生息地」、「資源強度」、「廃棄物」がインパクトエリア/トピックとして特定された。特定したインパクトは4項目に分けられ、すべての項目で KPI が設定された。これらはいずれも、ジョイフル本田のマテリアリティに関する内容である。今後、これら4項目のインパクトに係る KPI 等に対して、モニタリングが実施される予定である。

JCR は、本 PIF 評価における包括的分析及びインパクト特定の内容について、モデル・フレームワークに示された項目に沿って確認した結果、適切な分析がなされていると評価している。また、本 PIF 評価の KPI に基づくインパクトについて、PIF 原則に例示された評価基準に沿って確認した結果、多様性・有効性・効率性・追加性が期待されると評価している。当該 KPI は、上記のインパクト特定及びジョイフル本田のサステナビリティ活動の内容に照らしても適切である。さらに、本 PIF 評価におけるモニタリング方針について、本 PIF 評価のインパクト特定及び KPI の内容に照らして適切であると評価している。したがって、JCR は本 PIF 評価において、持続可能な開発目標 (SDGs) に係る三側面 (環境・社会・経済) を捉えるモデル・フレームワークの包括的インパクト分析 (インパクトの特定・評価・モニタリング) が、十分に活用されていると評価している。

## (2) 常陽銀行の PIF 評価フレームワーク及び本ファイナンスの PIF 原則に対する準拠性

JCR は、常陽銀行の PIF 商品組成に係るプロセス、手法及び社内規程・体制の整備状況、並びにジョイフル本田に対する PIF 商品組成について、PIF 原則に沿って確認した結果、全ての要件に準拠していると評価している。また、本ファイナンスは「インパクトファイナンスの基本的考え方」と整合的であると評価している。

以上より、JCR は、本ファイナンスが PIF 原則及びモデル・フレームワークに適合していること、また「インパクトファイナンスの基本的考え方」と整合していることを確認した。

\* 詳細な意見書の内容は次ページ以降をご参照ください。

## 第三者意見

評価対象：株式会社常陽銀行の株式会社ジョイフル本田に対する  
ポジティブ・インパクト・ファイナンス

2024年9月20日  
株式会社 日本格付研究所

## 目次

<要約> .....	- 3 -
I. 第三者意見の位置づけと目的 .....	- 5 -
II. 第三者意見の概要 .....	- 5 -
III. ジョイフル本田に係る PIF 評価等について .....	- 6 -
1. ジョイフル本田の概要 .....	- 6 -
1-1. 会社概要 .....	- 6 -
1-2. 沿革 .....	- 8 -
1-3. 事業概要 .....	- 12 -
1-4. 企業理念、経営方針等 .....	- 14 -
1-5. 中期経営計画 .....	- 14 -
2. サステナビリティ方針・推進体制 .....	- 16 -
2-1. サステナビリティ基本方針 .....	- 16 -
2-2. サステナビリティ推進体制 .....	- 16 -
2-3. サステナビリティへの取り組み .....	- 17 -
2-4. 外部評価等 .....	- 24 -
2-5. マテリアリティ～目標・KPI の体系 .....	- 25 -
3. 包括的分析及びインパクト特定の適切性評価 .....	- 28 -
3-1. 包括的分析 .....	- 28 -
3-2. インパクトエリア/トピックの特定 .....	- 30 -
3-3. JCR によるモデル・フレームワークに示された項目に沿う評価 .....	- 32 -
4. テーマ及び KPI の設定 .....	- 34 -
4-1. テーマの設定 .....	- 34 -
4-2. KPI の設定 .....	- 35 -
5. 管理体制 .....	- 44 -
6. JCR による評価 .....	- 45 -
7. モニタリング方針 .....	- 49 -
8. モデル・フレームワークの活用状況評価 .....	- 50 -
IV. PIF 原則に対する準拠性等について .....	- 51 -
1. PIF 原則 1 定義 .....	- 51 -
2. PIF 原則 2 フレームワーク .....	- 51 -
3. PIF 原則 3 透明性 .....	- 53 -
4. PIF 原則 4 評価 .....	- 53 -
5. インパクトファイナンスの基本的考え方 .....	- 54 -
V. 結論 .....	- 55 -

## <要約>

本第三者意見は、株式会社常陽銀行（常陽銀行）が株式会社ジョイフル本田（ジョイフル本田）に実施するポジティブ・インパクト・ファイナンス（本ファイナンス）に対して、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）の策定した PIF 原則及び資金使途を限定しない事業会社向け金融商品のモデル・フレームワーク（モデル・フレームワーク）への適合性、並びに環境省の ESG 金融ハイレベル・パネル設置要綱第 2 項(4)に基づき設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォース（PIF TF）が纏めた「インパクトファイナンスの基本的考え方」との整合性を確認したものである。株式会社日本格付研究所（JCR）は、PIF 第 4 原則で推奨されている評価の透明性及び客観性確保のため、独立した第三者機関として、(1)ジョイフル本田に係る PIF 評価の合理性及び本ファイナンスのインパクト、並びに(2)常陽銀行の PIF 評価フレームワーク及び本ファイナンスの PIF 原則に対する準拠性について確認を行った。

### (1) ジョイフル本田に係る PIF 評価の合理性及び本ファイナンスのインパクト

ジョイフル本田は、『必要必在』と『生活提案』で地域社会の喜びと夢を共創する」というミッション及び「国内 No.1 の “Living Space Innovator” 企業となる」というビジョンのもと、ホームセンター事業及び住宅リフォーム事業を営む企業である。1975 年、「住まいと暮らしの総合センター」を経営ビジョンに掲げて、茨城県土浦市に株式会社ジョイフル本田が設立された。1976 年にホームセンター1 号店としてジョイフル本田荒川沖店（茨城県土浦市）をオープンしたのを皮切りに、1977 年から 1995 年までに茨城県、千葉県、埼玉県にホームセンターを 8 店舗出店し、多くの店舗で増床している。また、1998 年にはホームセンター10 号店として、日本最大級の売場面積となるジョイフル本田ニューポートひたちなか店（茨城県ひたちなか市）をオープンし、これ以降、ホームセンター15 号店となるジョイフル本田千代田店まで、積極的に超大型店を開業した。2014 年には東京証券取引所一部上場を果たし、現在は東京証券取引所プライム市場に上場している。

ジョイフル本田は、持続可能な社会の実現に向けて、サステナビリティ活動を強化するために、マテリアリティを特定するとともに、2023 年 7 月に代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ委員会を設置した。サステナビリティ委員会では、気候関連のリスクに関する方針、施策、制度の新設・改廃の策定、GX 推進の進捗状況及び課題と対策の報告とそれに対する助言、働きがいのある職場の実現に向けた課題と対策の報告とそれに対する助言等について審議するとともに、定期的に取り締役会へ報告・提言を行っている。

本 PIF 評価では、ジョイフル本田の事業活動全体に対する包括的分析が行われた。ジョイフル本田のサステナビリティ活動等を分析した結果、ポジティブ面では「住居」、「教育」、「賃金」、「零細・中小企業の繁栄」が、ネガティブ面では「データプライバシー」、「自然災

害」、「健康および安全性」、「社会的保護」、「ジェンダー平等」、「気候の安定性」、「生物種」、「生息地」、「資源強度」、「廃棄物」がインパクトエリア/トピックとして特定された。特定したインパクトは4項目に分けられ、すべての項目でKPIが設定された。これらはいずれも、ジョイフル本田のマテリアリティに関する内容である。今後、これら4項目のインパクトに係るKPI等に対して、モニタリングが実施される予定である。

JCRは、本PIF評価における包括的分析及びインパクト特定の内容について、モデル・フレームワークに示された項目に沿って確認した結果、適切な分析がなされていると評価している。また、本PIF評価のKPIに基づくインパクトについて、PIF原則に例示された評価基準に沿って確認した結果、多様性・有効性・効率性・追加性が期待されると評価している。当該KPIは、上記のインパクト特定及びジョイフル本田のサステナビリティ活動の内容に照らしても適切である。さらに、本PIF評価におけるモニタリング方針について、本PIF評価のインパクト特定及びKPIの内容に照らして適切であると評価している。したがって、JCRは本PIF評価において、持続可能な開発目標（SDGs）に係る三側面（環境・社会・経済）を捉えるモデル・フレームワークの包括的インパクト分析（インパクトの特定・評価・モニタリング）が、十分に活用されていると評価している。

## (2) 常陽銀行のPIF評価フレームワーク及び本ファイナンスのPIF原則に対する準拠性

JCRは、常陽銀行のPIF商品組成に係るプロセス、手法及び社内規程・体制の整備状況、並びにジョイフル本田に対するPIF商品組成について、PIF原則に沿って確認した結果、全ての要件に準拠していると評価している。また、本ファイナンスは「インパクトファイナンスの基本的考え方」と整合的であると評価している。

以上より、JCRは、本ファイナンスがPIF原則及びモデル・フレームワークに適合していること、また「インパクトファイナンスの基本的考え方」と整合していることを確認した。



## I. 第三者意見の位置づけと目的

JCRは、常陽銀行がジョイフル本田に実施するPIFに対して、UNEP FIの策定したPIF原則及びモデル・フレームワーク、並びにPIF TFの纏めた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に沿って第三者評価を行った。PIFとは、SDGsの目標達成に向けた企業活動を、金融機関等が審査・評価することを通じて促進し、以て持続可能な社会の実現に貢献することを狙いとして、当該企業活動が与えるポジティブなインパクトを特定・評価の上、融資等を実行し、モニタリングする運営のことをいう。

PIF原則は4つの原則からなる。第1原則は、SDGsに資する三つの柱（環境・社会・経済）に対してポジティブな成果を確認でき、ネガティブな影響を特定し対処していること、第2原則は、PIF実施に際し、十分なプロセス、手法、評価ツールを含む評価フレームワークを作成すること、第3原則は、ポジティブ・インパクトを測るプロジェクト等の詳細、評価・モニタリングプロセス、ポジティブ・インパクトについての透明性を確保すること、第4原則は、PIF商品が内部組織または第三者によって評価されていることである。

本第三者意見は、PIF第4原則で推奨されている評価の透明性及び客観性確保のため、JCRが独立した第三者機関として、本PIF評価の合理性及び本PIF評価に基づくファイナンスのインパクト、並びに常陽銀行のPIF評価フレームワーク及び本PIF評価のPIF原則に対する準拠性を確認し、本PIF評価のPIF原則及びモデル・フレームワークへの適合性、並びに「インパクトファイナンスの基本的考え方」との整合性について確認することを目的とする。

## II. 第三者意見の概要

本第三者意見は、常陽銀行がジョイフル本田との間で2024年9月20日付にて契約を締結した資金用途を限定しないPIFに対する意見表明であり、以下の項目で構成されている。

<ジョイフル本田に係るPIF評価等について>

1. ジョイフル本田の事業概要
2. サステナビリティに関する戦略・方針及び活動実績
3. 包括的分析（含むインパクトエリア／トピックの特定）
4. インパクトの内容及びKPIの設定
5. サステナビリティに関するガバナンス体制
6. モニタリングの頻度と方法

<常陽銀行のPIF評価フレームワーク等について>

1. 常陽銀行の組成する商品（PIF）が、UNEP FIのPIF原則及び関連するガイドラインに準拠しているか（プロセス及び商品組成手法は適切か、またそれらは社内文書で定められているかを含む）
2. 常陽銀行が社内で定めた規程に従い、ジョイフル本田に対するPIFを適切に組成できているか

### Ⅲ. ジョイフル本田に係る PIF 評価等について

本項では、ジョイフル本田に係る PIF 評価におけるモデル・フレームワークの包括的インパクト分析（インパクトの特定・評価・モニタリング）の活用状況と、本ファイナンスのインパクト（①多様性、②有効性、③効率性、④倍率性、⑤追加性）について確認する。

#### 1. ジョイフル本田の概要

##### 1-1. 会社概要

ジョイフル本田は、茨城県土浦市に本社を置き、「居住環境をより豊かに快適に」をテーマに生活用品ならびに住宅資材の販売を行う企業である。創業地でもある茨城県を含む関東のロードサイド郊外を中心に大規模店舗を展開している。

顧客の「不」の解消と新たな価値提供を創業時より大切にしており、ニーズやチャネルが多様化する中、圧倒的な品揃えを強みとした店舗運営を行っている。

また、2023年3月には敷地面積東京ドーム2.8個分となる131,852㎡の大型商業施設である「ジョイホンパーク吉岡」を群馬県北群馬郡吉岡町にオープンした。ジョイホンパーク吉岡では、超大型店である「ジョイホン吉岡店」を中心テナントとし、知的創造心を揺さぶる「非日常体験」の演出により、全世代が楽しめる「何度でも繰り返し行きたくなる」を感じさせる唯一無二の広域商圈型ワンストップショッピングパークを目指している。

図表 1. ジョイホンパーク吉岡



出典：ジョイフル本田提供



図表 2. ジョイフル本田の概要

社名	株式会社ジョイフル本田(東証プライム 3191)	
代表者	代表取締役社長 平山 育夫	
本社	〒300-0813 茨城県土浦市富士崎 1-16-2	
店舗	ジョイフル本田瑞穂店 ジョイフル本田幸手店 ジョイフル本田八千代店 ジョイフル本田市原店 ジョイフル本田君津店 ジョイフル本田千葉店 ジョイフル本田富里店 ジョイフル本田千葉ニュータウン店 ジョイフル本田荒川沖店 ジョイフル本田古河店 ジョイフル本田守谷店 ジョイフル本田 ニューポートひたちなか店 ジョイフル本田宇都宮店 ジョイフル本田新田店 ジョイフル本田千代田店 ジョイホン小山駅前店 ジョイホンパーク吉岡 THE GLOBE ANTIQUES THE GLOBE イオンモールつくば店 ペッツクローバー東大宮店 本田屋千葉都町店 本田屋船橋夏見台店 本田屋柏豊四季店 本田屋宇都宮元今泉店 本田屋立川幸町店	東京都西多摩郡瑞穂町殿ヶ谷 442 埼玉県幸手市上高野 1258-1 千葉県八千代市村上 2723-1 千葉県市原市五所 1738-2 千葉県君津市外箕輪 3-7 千葉県千葉市稲毛区園生町 368-1 千葉県富里市七栄 525-24 千葉県印西市牧の原 2-1 茨城県土浦市北荒川沖町 1-30 茨城県古河市西牛谷 347 茨城県守谷市松ヶ丘 3-8 茨城県ひたちなか市新光町 34-1 栃木県河内郡上三川町磯岡 421-1 群馬県太田市新田市野井町 556-1 群馬県邑楽郡千代田町萱野 813-1 栃木県小山市駅前通り 2-3-15 群馬県北群馬郡吉岡町大久保 364-1 東京都世田谷区池尻 2-7-8 茨城県つくば市稲岡 66-1 埼玉県さいたま市見沼区島町 1-8-1 千葉県千葉市中央区都町 3-29-7 千葉県船橋市夏見台 5-12-25 千葉県柏市豊四季 269-9 栃木県宇都宮市元今泉 7-1-12 東京都立川市幸町 4-36-9
設立年月	1975年12月	
事業内容	ホームセンター事業、住宅リフォーム事業	
資本金	12,000百万円	
売上高	126,894百万円(2024年6月期)	
従業員	4,486名(時給制社員2,619名含む)(2023年6月20日現在)	
関係企業	(株)MTJフィットネス(スポーツクラブ事業)	

## 1-2. 沿革

ジョイフル本田は、1975年12月に「居住環境をより豊かに快適に」をテーマに生活用品ならびに住宅資材の販売を事業目的とし、茨城県土浦市に設立した。翌年の1976年3月には、1号店となる「ジョイフル本田荒川沖店」を茨城県土浦市内にオープンし、以降、茨城県、千葉県のロードサイドを中心に店舗網を構築している。

2018年3月には、「職人の店」をコンセプトにしたプロユーザー向けの商品を取り扱う「本田屋」1号店を千葉県千葉市にオープンさせ、2023年4月には12年ぶりの超大型店となるジョイホン吉岡店を含む、複合商業施設であるジョイホンパーク吉岡を群馬県北群馬郡吉岡町にオープンさせた。

図表 3. ジョイフル本田の沿革

年月	概要
1975年12月	茨城県土浦市東真鍋町9番35号に生活用品ならびに住宅資材の販売を事業目的とし同社設立
1976年3月	茨城県土浦市にジョイフル本田荒川沖店を開設
1977年3月	千葉県八千代市にジョイフル本田八千代店を開設
1977年4月	茨城県古河市にジョイフル本田古河店を開設
1978年6月	埼玉県幸手市にジョイフル本田幸手店を開設
1982年4月	千葉縣市原市にジョイフル本田市原店を開設
1983年3月	茨城県土浦市に株式会社スマイル本田(現リフォーム事業部)を設立
1985年4月	茨城県土浦市に株式会社ジョイフルアスレティッククラブ(現株式会社MTHフィットネス)を設立
1985年9月	茨城県土浦市に株式会社ホンダ産業を設立
1987年8月	茨城県土浦市に株式会社ジョイフル内装を設立
1987年11月	千葉県君津市にジョイフル本田君津店を開設
1990年10月	千葉県千葉市稲毛区にジョイフル本田千葉店を開設
1992年7月	茨城県土浦市に財団法人霞ヶ浦水質浄化推進振興財団(現公益財団法人本田記念財団)を設立
1993年4月	茨城県守谷市にジョイフル本田守谷店を開設
1994年9月	茨城県土浦市につくば商業都市開発株式会社を設立
1995年6月	千葉県富里市にジョイフル本田富里店を開設
1995年6月	株式会社ホンダ産業が、東京都世田谷区にTHE GLOBE三宿店を開設
1998年3月	茨城県ひたちなか市にジョイフル本田ニューポートひたちなか店を開設
2000年4月	群馬県太田市にジョイフル本田新田店を開設
2001年8月	北海道札幌市に株式会社ジョイフルエーカーを株式会社キムラ、アークランドサカモト株式会社(現アークランズ株式会社)と同社の三社で共同設立
2002年4月	ジョイフル本田新田店敷地内にアンディ&ウィリアムスボタニックガーデン開設

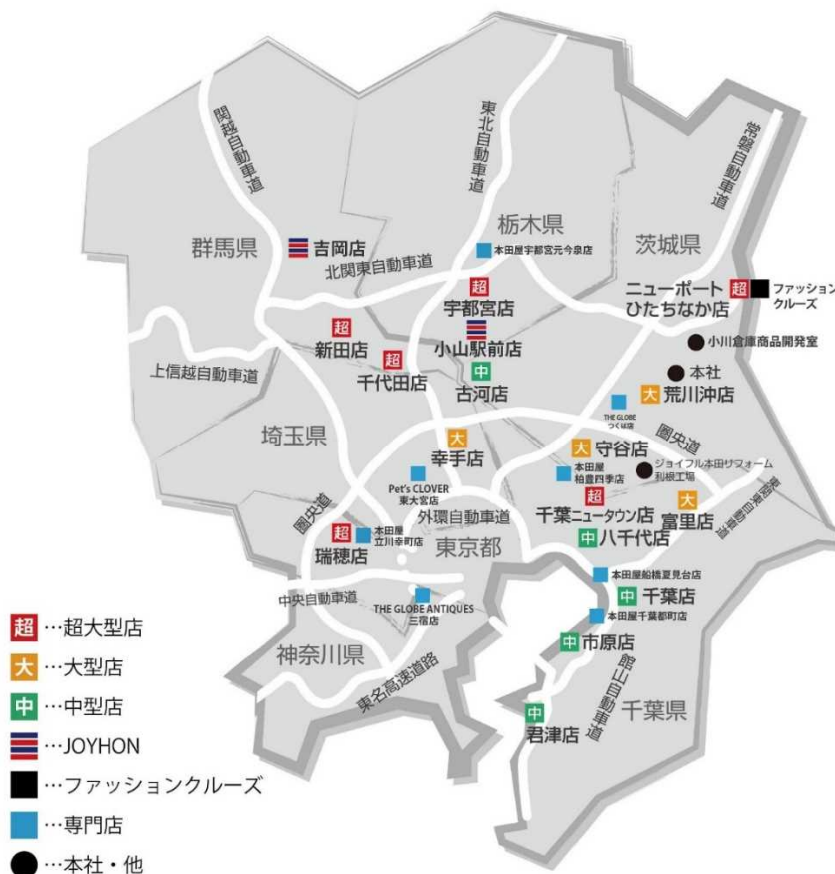
年月	概要
2002年12月	千葉県印西市にジョイフル本田千葉ニュータウン店を開設
2004年10月	栃木県河内郡上三川町にジョイフル本田宇都宮店を開設
2007年1月	東京都西多摩郡瑞穂町にジョイフル本田瑞穂店を開設
2010年5月	株式会社スマイル本田(現リフォーム事業部)、株式会社ホンダ産業、株式会社ジョイフルアスレティッククラブ(現株式会社MTJ フィットネス)、つくば商業都市開発株式会社、株式会社ジョイフル内装を100%子会社化
2010年9月	株式会社ホンダ産業はつくば商業都市開発株式会社を、株式会社スマイル本田(現リフォーム事業部)は株式会社ジョイフル内装をそれぞれ吸収合併
2011年3月	群馬県邑楽郡千代田町にジョイフル本田千代田店を開設
2013年3月	千葉県印西市のジョイフル本田千葉ニュータウン店敷地内に株式会社ジョイフル車検・タイヤセンター(現株式会社BACS Boots)を開設
2014年4月	東京証券取引所市場第一部へ上場
2016年6月	株式会社ジョイフル車検・タイヤセンター(現株式会社BACS Boots)を連結子会社化
2016年11月	株式会社スマイル本田(現リフォーム事業部)が、茨城県つくば市につくばショールームを開設
2017年6月	エクステリアセンター事業部を株式会社スマイル本田(現リフォーム事業部)に譲渡
2017年11月	株式会社ホンダ産業が、茨城県つくば市の大型商業施設内(イオンモールつくば)にTHE GLOBE つくば店を開設
2018年3月	埼玉県さいたま市見沼区にPet's CLOVER 東大宮店を開設
2018年3月	千葉県千葉市中央区に本田屋千葉都町店を開設
2018年4月	千葉県千葉市稲毛区のジョイフル本田千葉店をリニューアルオープン
2018年11月	株式会社ジョイフルアスレティッククラブ(現株式会社MTJ フィットネス)が、千葉縣市川市にオレンジセオリーフィットネス本八幡を開設
2019年7月	株式会社ジョイフルアスレティッククラブ(現株式会社MTJ フィットネス)がジョイフルアスレティッククラブ土浦店をリニューアルオープン
2020年1月	株式会社ジョイフル本田リフォーム(現リフォーム事業部)が、千葉県千葉市にジョイフル本田リフォーム千葉店を開設
2020年2月	セルフガソリンスタンド事業及び灯油スタンド事業の事業譲渡契約を出光興産株式会社と締結
2020年3月	株式会社ジョイフル本田リフォーム(現リフォーム事業部)、株式会社ホンダ産業を吸収合併、また、株式会社ジョイフルアスレティッククラブ(現株式会社MTJ フィットネス)及び株式会社ジョイフル車検・タイヤセンター(現株式会社BACS Boots)を非連結子会社化
2020年9月	千葉県船橋市に本田屋船橋夏見台店を開設
2021年3月	株式会社ジョイフルアスレティッククラブ(現株式会社MTJ フィットネス)の株式の一部を株式会社THINK フィットネスへ譲渡

年月	概要
2021年 3月	千葉県柏市に本田屋柏豊四季店を開設
2021年 4月	株式会社ジョイフル車検・タイヤセンター(現株式会社 BACS Boots)の全株式を株式会社オートバックスセブンへ譲渡
2021年 7月	株式会社 MTJ フィットネスが、オレンジセオリー・ジャパン株式会社(オレンジセオリーフィットネス本八幡)とのフランチャイズ契約を解消
2021年 8月	茨城県つくば市のジョイフル本田リフォームつくばショールームを閉店
2022年 4月	栃木県小山市にジョイホン小山駅前店を開設
2023年 4月	群馬県北群馬郡吉岡町にジョイホンパーク吉岡を開設
2024年 2月	栃木県宇都宮市に本田屋宇都宮元今泉店を開設
2024年 6月	東京都立川市に本田屋立川幸町店を開設

<営業拠点> (2024年6月20日現在)

ジョイフル本田の営業拠点は、下図の通りである。商圈の広さを活かし、関東地方に様々な規模の店舗を広く開設している。

図表 4. ジョイフル本田の営業拠点

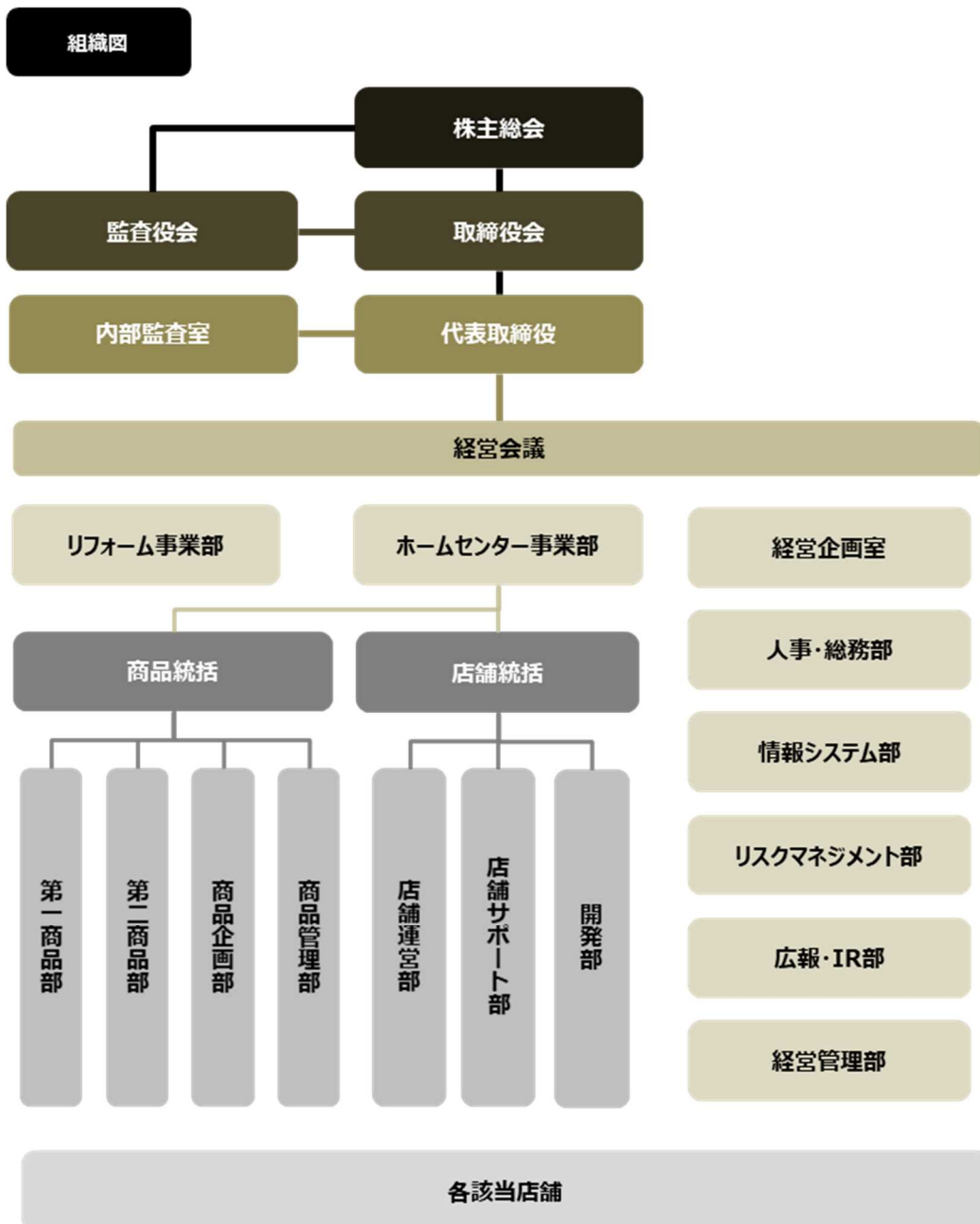


出典：ジョイフル本田 HP

<組織図> (2024年6月20日現在)

ジョイフル本田の組織図は下図の通りである。

図表 5. ジョイフル本田の組織図



出典：ジョイフル本田 HP

### 1-3. 事業概要

ジョイフル本田では、「住まい」に関する関連商品（資材・プロ用品、インテリア・リビング、ガーデン・ファーム）の販売及びリフォーム工事の設計・施工・関連商品の販売ならびに「生活」に関する関連商品（デイリー・日用品、ペット・レジャー）の販売、また、これらに付帯するサービスを提供する専門店として、一般消費者からプロ顧客まで幅広く対応した、豊富な品揃えとロープライスを実践するホームセンター事業、住宅リフォーム事業を営んでいる。創業翌年の1976年3月には、1号店となる「ジョイフル本田荒川沖店」を茨城県土浦市内にオープンし、続いて八千代店（千葉県八千代市）、古河店（茨城県古河市）をオープンし、茨城県、千葉県のロードサイドを中心に店舗網を構築している。

2018年3月には、「職人の店」をコンセプトにしたプロユーザー向けの商品を取り扱う「本田屋」1号店を千葉県千葉市にオープン、2023年4月には12年ぶりの超大型店となるジョイホン吉岡店を含む、複合商業施設であるジョイホンパーク吉岡を群馬県北群馬郡吉岡町にオープンさせた。

同社では、プロ職人が使用する専門性の高い資材・素材・工具等の積極的投入、防災用品コーナーの見直しと拡張を実施するなど各商品グループの品揃えを增強し、さらに通年EDLP（エブリデイ・ロープライス）商品を拡充し、安心して買物のできる価格設定にも取り組んでいる。変化する顧客の潜在的ニーズや要望に的確に対応した商品をセレクトする専門の担当者を配置し、海外直輸入商材を拡充、また同社独自のプレミアム商品の企画・開発等にも注力するなど、新生活空間の提案を行い、発見のある魅力的な売場づくりに取り組み、他社との差別化を図っている。

図表 6. 店舗内の様子

出典：ジョイフル本田 HP





































































































